

## 令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県央会場

#### 科目 ⑪保護者との連携・協力と相談支援

- ◆ 「褒める」「認める」の重要性が心に残りました。具体的な言葉で相手（保護者）に伝えることで、相手も自分の存在を認められ、「これで良いのだ」と安心し、小さなことでも自信につながると思いました。また、2人組になって各テーマを実践し、表情や姿勢などの普段やっていることを振り返る良い機会となりました。明るい発声で語りかけ、丁寧な関わりをすることで保護者との信頼関係を築いていけると思うので、今後も努力していきたいです。
- ◆ 保育の実際の現場での保育者と保護者とのやりとりなど、具体的な会話を上げながら、保護者と信頼関係を築いていく様子を教えてもらいました。グループワークでは初対面の方と様々な話し方で会話することで、相づちや視線、表情、口調など大切なことが重なり合っていると実感しました。実際に保護者と話す場面でなかなか心の余裕はないですが、今回学んだことを活かし、信頼関係を築いていけたらと思います。
- ◆ 保護者によって、環境や置かれている状況、教育方針などの考え方、方向性の違いなど様々なことが背景にあり、関わり方で悩むことが多いです。今回の研修を経て、何もかも背負い過ぎていた部分があったと感じました。保育者の専門性を活かし、伝えたいことをきちんと相手に伝えられるように丁寧に関わること、子どもを通じて支援していくことが大切な役割だと知りました。周りの仲間と相談し合いながら保護者支援をすることが大事であると感じました。
- ◆ 保護者への対応をするにあたり、保護者に対してマイナスのイメージではなく、プラスのイメージをもつこと、また、「褒める」「認める」ことが大事だということが分かりました。また、保護者への対応の基本として、傾聴・受容・共感的に理解することが信頼関係を構築する上で重要であるということが分かりました。グループワークで、コミュニケーションの仕方で、相手の受け取り方が変わるということを学びました。
- ◆ 学童保育に従事していく上で保護者とのやりとりは避けられません。「保護者」という言葉で一瞬身構えてしまいましたが、一緒に子育てに携えるという考えで今後も対応していきたいです。研修で行った「非言語コミュニケーション」を大切にし、相談したりされたりする関係を徐々に構築できたらと思います。学童保育現場においても今日の研修内容を共有し、今一度保護者対応について話し合いの場を設けていきたいです。